

清水合金製作所は水道事業者が抱える課題に真摯に向き合うモノづくりを追求し、意欲的かつ多様なオリジナル製品をリリースしている。本紙では同社の営業担当者にスポットを当て、イチオシ製品の概要や営業活動でのエピソードを紹介頂く連載シリーズを過去4回企画。いずれも好評だったことを受け、今号から4回にわたって第5弾「補強部材」シリーズを掲載する。

## 清水合金製作所

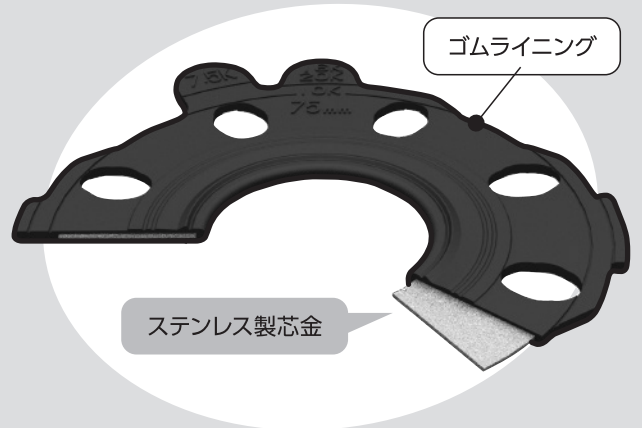
### 補強部材シリーズ 数珠つなぎ①

仙台営業所 田中 智洸 氏



イチオシ!

# マルチガスケット



## フランジの耐震性向上への 要望に対応させ

仙台営業所の田中智洸さんは昨年10月に入社した新人の営業マン。今年4月からは岩手県、秋田県を担当地域に営業活動を展開している。

「まずは顔を覚えてもらうことを念頭に水道事業体などを回っています」と広範囲なエリアを奔走する日々だ。

田中さんのイチオシ製品はマルチガスケット。耐震補強を目的とするフランジ接合部材になる。

「水道施設の耐震化が進む中、フランジはボルトで止めるだけですだから耐震化が難しい。難しいから漏水が多い箇所でもあるのです。地震の外力と管内の圧力変動によって漏水は発生するもので、その対応としてマルチガスケットが開発されました」と話す。

マルチガスケットの特長はいくつかあるが、まずステンレス製の芯金にゴムライニングを施している構造。地震などで管路内が高圧になった時もゴム部分で止水性を確保し、さらに配管に曲げが発生してもステンレス芯金によって変形を抑える。この構造によって破損・飛び出し・漏水を防止するわけだ。

「ガスケット座面には環状の突起と溝を設けることで高い水密性を実現しています。またステンレス芯金は施工性の向上にもつながっています。芯金がありますから、たわむことが無いのです。水平配管などは取っ手をつかんで吊り上げるとフランジのボルト穴と一致しますから施工性も良いのです」と説明する。



被災経験を胸に、水道強靱化へ熱心に提案

独自のボルト穴形状で呼び圧力7.5K、10K、16K、20Kなどのあらゆるフランジに対応できることも特長の一つ。

「口径さえ分かれば一枚のマルチガスケットですべての設置が可能です。GF形とRF形、さらにはGF形とGF形などのような組み合わせでも対応できるわけです」とセールスポイントを紹介する。

呼び径150

基準穴に合わせることで全てのボルト穴が一致します。  
○は基準穴、●はボルト位置を表す



7.5Kフランジの場合



10Kフランジの場合



16K、20Kフランジの場合

初めての営業先でも好評だという。

「デモカーで岩手県内を回った時、マルチガスケットを初見の方から『こんな製品があったのか!』と手に取って喜んで頂き、採用に繋がったケースもありました。新たな事業体を回りますと、フランジの耐震性向上に対する要望が多々あることを実感しますね。漏水発生時に備えて備蓄されている事業体も増えているのは嬉しいことです」と語る。

東日本大震災時、田中さんは高校1年生だった。当時、暮らしていた宮城県沿岸部は大津波に襲われた。断水の辛い体験は今も生々しい。

「飲用、生活用水はもちろんですが、津波による土砂清掃にも水道は不可欠でした。蛇口から水が出ることの有難さを身に染みてわかっていますから、マルチガスケットの普及によって強靱な水道構築の一助になればと願っています」と、思いを込めた営業活動を行っている。



マルチガスケットは漏水が多発するフランジ接合部に着眼したもので、記事中にもある様々な技術的工夫が盛り込まれていることに感心した。管路の耐震化を進める水道事業者にとっては待望の製品ではないだろうか。リピーターが多いのも肯ける。田中さんは新人の営業マンらしく意欲的に業務に取り組んでいる。インタビューの中、東日本大震災の被災者としても耐震化の推進を願っているという話が印象的だった。